■勝島王冠（ＳⅡ）アラカルト（過去全 17 回の分析）

※記録は令和 8 年 11 月 18 日時点

■1 番人気馬の 3 着内率は 8 割超

単勝 1 番人気馬は 7 勝、2 着 4 回、3 着 3 回で、3 着内率が 82.4%、単勝 2 番人気馬は 3 勝、2 着 4 回、3 着 1 回で、3 着内率が 47.1%、単勝 3 番人気馬は 2 勝、2 着 3 回、3 着 1 回で、3 着内率が 35.3%となっている。単勝 1 番人気馬の好走率がかなり高いレースだ。

■上位人気馬が 1～2 着を占めた例も多数

過去 17 回のうち 12 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 8 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 2 回ある。

■優勝馬の大半は 6 歳以下

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 2 勝、4 歳が 6 勝、5 歳が 3 勝、6 歳が 5 勝、7 歳が 1 勝となっている。7 歳以上馬による優勝例は、第 17 回（令和 7 年）のキングストンボーイだけだ。

■牝馬、外国産馬とも出走例が少ない

牝馬の出走例は第 2 回（平成 22 年）のラインジュエル（12 着）、第 15 回（令和 5 年）のコスモポポラリタ（10 着）のみとなっている。また、外国産馬の出走例も第 9 回（平成 29 年）のシャドウパーティー（16 着）、第 15 回（令和 5 年）のデュープロセス（9 着）、第 16 回（令和 6 年）のコラルノクターン（8 着）、第 17 回（令和 7 年）のバハルダール（5 着）だけである。

■モジアナフレイバーとキングストンボーイが“連覇”を達成

勝島王冠において 2 回以上の優勝経験があるのは、第 10 回（平成 30 年）と第 11 回（令和元年）を制したモジアナフレイバー、第 16 回（令和 6 年）と第 17 回（令和 7 年）を制したキングストンボーイの 2 頭である。なお、いずれも 2 回連続の優勝だ。

■騎手別の歴代最多勝記録は「2」

騎手別の勝利数を見ると、2 勝の繁田健一騎手、御神本訓史騎手、森泰斗騎手がトップタイとなっている。

■調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、3 勝の森下淳平調教師が単独トップ。福永敏調教師、渡邉和雄調教師が 2 勝で 2 位タイとなっている。

■未勝利の馬番は多くない

枠番別勝利数を見ると、4 枠（4 勝）が単独トップ。2 枠、3 枠、5 枠、6 枠、7 枠、8 枠（各 2 勝）が 2 位タイとなっている。なお、1 枠も 1 勝しており、未勝利の枠番はない。また、馬番別勝利数を見ると、7 番（4 勝）が単独トップ。5 番と 8 番（各 2 勝）が 2 位タイとなっている。ちなみに、未勝利の馬番は 1 番、6 番、9 番、14 番である。

＜伊吹雅也＞